

科目名	CAD演習Ⅳ						
科目名(英)	AutoCAD practice Ⅱ						
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	福光 春子	
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験	建材メーカー設計室にて建築・施設設計担当。今も実務に従事。	
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年						
授業概要	演習を通して、レイアウト空間での印刷スキルの習得及びCAD操作の正確さ、図面の読図能力、応用力の習得を図る						
授業形態	講義: △		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				建築設計ツールの一つであるAutoCADの機能について学び、必要な機能を選択し使用することができる。	
	○	○				授業を通じて図面の種類を学び、図面と図面の関係性を立体的に捉え作図することができる。	
	○	○				意匠図の作図を通じて部屋の広さや高さを学び、建物の計画に応用することができる。	
	○	○				構造図面の作図を通じて木造住宅の構造を学ぶと共に、部材の名称を答えることができる。	
	○	○				授業を通して建築図面の作図手順を学び、建築計画時に応用することができる。	
テキスト・教材 参考図書	テキスト:オリジナルプリント 参考図書:超入門 建築製図(市ヶ谷出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	鉄筋コンクリート住宅 1階平面図①				オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)	
	2	鉄筋コンクリート住宅 1階平面図②				オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)	
	3	鉄筋コンクリート住宅 2階平面図①				オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)	
	4	鉄筋コンクリート住宅 2階平面図②				オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)	
	5	鉄筋コンクリート住宅 断面図①				オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)	
	6	鉄筋コンクリート住宅 断面図②				オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)	
	7	鉄筋コンクリート住宅 立面図①				オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)	
	8	鉄筋コンクリート住宅 立面図②				オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)	
	9	鉄筋コンクリート住宅 配置図、レイアウト空間での印刷				オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)	
	10	鉄骨造住宅 1階平面図①				オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)	
	11	鉄骨造住宅 1階平面図②、鉄骨造住宅 3階平面図①				オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)	
	12	鉄骨造住宅 2階平面図②				オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)	
	13	鉄骨造住宅 断面図①				オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)	
	14	鉄骨造住宅 断面図②、鉄骨造住宅 立面図①				オリジナルプリント 建築製図 基本の基本(学芸出版社)	
	15	鉄骨造住宅 立面図②、印刷				授業内容の復習 データ提出	
評価方法	(1) 練習問題を数回実施する。(2) 授業課題の提出を求める。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題提出状況	◎	◎				50%
	練習問題(スピードと正確さ)	◎	◎				50%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	BIM演習Ⅱ									
科目名(英)										
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		道脇 力	
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験		建築設計会社にて設計担当	
対象学科・学年	建築学科 2年									
授業概要	・企画設計から基本、実施設計への流れ・モデル作成、モデルから実施設計図面を作成 ・チームワーク作業									
授業形態	講義:		演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標				
		○				基本設計、実施設計の概要と環境設定ができる。				
		○				企画設計モデルから基本設計モデルへの移行作業ができる。				
		○				基本設計モデルから実施設計モデルへの移行作業ができる。				
		○				実施設計図面の詳細図の作成ができる。				
		○				自身で思い描いた形、空間をARCHUCADを使って表現できる。				
テキスト・教材 参考図書	ARCHICAD 22ではじめる BIM設計入門 [基本・実施設計編]									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	前期の復習、教材モデルの入力					テキストを見て予習を行うこと			
	2	教材モデルの入力					前回の復習を行うこと			
	3	教材モデルの入力					前回の復習を行うこと			
	4	教材モデルの入力					前回の復習を行うこと			
	5	教材モデルの入力					前回の復習を行うこと			
	6	教材モデルの入力					前回の復習を行うこと			
	7	教材モデルの入力					前回の復習を行うこと			
	8	教材モデルの入力					前回の復習を行うこと			
	9	教材モデルの入力					前回の復習を行うこと			
	10	教材モデルの入力					前回の復習を行うこと			
	11	教材モデルの入力					前回の復習を行うこと			
	12	教材モデルの入力					前回の復習を行うこと			
	13	教材モデルの入力					前回の復習を行うこと			
	14	教材モデルの入力					前回の復習を行うこと			
	15	課題提出								
評価方法	(1)2つの課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・表現力を評価する。(3)期限内に提出すること。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	課題提出			◎				50%		
	課題評価			◎				50%		
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない									

科目名	就職実務ⅡB						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	各クラス担任
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年						
授業概要	就職活動に必要な基礎知識を備えた人材の育成 就職活動における作品集作成や履歴書記入方法など、社会人になる上でのスキルを身につける。						
授業形態	講義：○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					就職活動における企業研究が行うことができる	
	○					自己分析を行うことができる	
	○					作品集を作成し就職活動ができる	
テキスト・教材 参考図書	就職ガイドブック 社会人研修ノート						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達					
	2	就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達					
	3	就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達					
	4	就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達					
	5	就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達					
	6	就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達					
	7	就職活動の状況報告 就職の求人情報の伝達					
	8	就職活動の状況報告/就職の求人情報の伝達 ビジネスマナー 復習					
	9	就職活動の状況報告/就職の求人情報の伝達 ビジネスマナー 復習					
	10	就職活動の状況報告/就職の求人情報の伝達 ビジネスマナー 復習					
	11	就職活動の状況報告/就職の求人情報の伝達 ビジネスマナー 復習					
	12	就職活動の状況報告/就職の求人情報の伝達 ビジネスマナー 復習					
	13	就職活動の状況報告/就職の求人情報の伝達 ビジネスマナー 復習					
	14	就職活動の状況報告/就職の求人情報の伝達 ビジネスマナー 復習					
	15	社会人研修					
評価方法	(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	受講態度・意欲		○				30%
	課題の提出		○				70%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	建築士対策(製図)										
科目名(英)	ARCHITECTURAL DESIGN DRAWING										
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		今泉 清太		
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験				
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年										
授業概要	2級建築士2次対策レベルに関する、木造建築構造の基礎知識から応用力を身に着ける。										
授業形態	講義: △		演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	△	○				方眼紙を読む力がある(m ² 計算や量数)が瞬時計算ができる。					
	○	○				木造建築の課題の特徴、出題傾向が説明できる。					
	○	○				各構造の矩計図、断面図の理解し、各部の名称が答えられる。					
		○				建築士2次試験問題を限られた時間で描ける					
テキスト・教材 参考図書	総合資格 2級建築士 設計製図 テキスト										
授業計画	回数	授業項目・内容						授業外学修指示			
	1	共通項目 設計製図試験の概要 試験の制度 特徴とポイント						(2級建築士試験) 設計製図テキスト 自己採点表 配布、事前確認、減点項目を知っておく。			
	2	共通項目 製図を始める前に 製図用具、用紙のセット						製図道具、用紙			
	3	共通項目 設計製図試験の概要 最近の出題傾向 関連法規						高齢者対応について 建築基準法法令集持参確認			
	4	木造 木造専用住宅 構造計画、配置計画と外部動線、平面計画						表現方法テキストで確認			
	5	木造 木造専用住宅 ケーススタディ 課題文の読み取り						表現方法テキストで確認			
	6	木造 要求図面 1階平面図兼配置図と2階平面図						表現方法テキストで確認			
	7	木造 要求図面 立面図 断面図						表現方法テキストで確認			
	8	木造 要求図面 2階床伏図兼1階小屋伏図						表現方法テキストで確認			
	9	木造 要求図面 部分詳細図						表現方法テキストで確認			
	10	チャレンジ課題① 課題読み合わせ ポイントライン引き						色鉛筆 蛍光ペン準備			
	11	チャレンジ課題① エスキース						色鉛筆 蛍光ペン準備			
	12	チャレンジ課題① エスキース						色鉛筆 蛍光ペン準備			
	13	チャレンジ課題① 作図演習						表現方法テキストで確認			
	14	チャレンジ課題① 作図演習						表現方法テキストで確認			
	15	チャレンジ課題① 作図演習						表現方法テキストで確認			
	16	チャレンジ課題① 作図演習						表現方法テキストで確認			
	17	チャレンジ課題① 作図演習、解説						解説復習			
	18	チャレンジ課題② エスキース						表現方法テキストで確認			
	19	チャレンジ課題② エスキース						表現方法テキストで確認			
	20	チャレンジ課題② 作図演習						表現方法テキストで確認			
	21	チャレンジ課題② 作図演習						表現方法テキストで確認			
	22	チャレンジ課題② 作図演習						表現方法テキストで確認			

	23	チャレンジ課題②	作図演習	表現方法テキストで確認			
	24	チャレンジ課題②	作図演習、解説	解説復習			
	25	チャレンジ課題③	エスキース	表現方法テキストで確認			
	26	チャレンジ課題③	エスキース	表現方法テキストで確認			
	27	チャレンジ課題③	作図演習	表現方法テキストで確認			
	28	チャレンジ課題③	作図演習	表現方法テキストで確認			
	29	チャレンジ課題③	作図演習	表現方法テキストで確認			
	30	チャレンジ課題③	作図演習、解説	解説復習			
評価方法	(1)課題の提出・課題の発表 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	チャレンジ課題	○	◎				100%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	建築士対策（計画）						
科目名(英)	Architectural Planning						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	森行 美枝
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	建築設計事務所にて設計・監理業務担当
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年						
授業概要	以下の項目について基本知識を理解し習得する。気象 換気 伝熱 日照 音響 色彩 住宅 商業建築 公共建築 給排水設備 電気・照明設備 消火・防災設備						
授業形態	講義： ○		演習： △		実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				2級建築士出題範囲である 伝熱計算、露点温度等のグラフが読める。	
	○	○				日照・日射・採光の図形を見て、出題問題の正解が導き出せる。	
	○	○				建築物に付随する設備についての種類や役割が説明できる。	
	○	○				建築の歴史において、建築物の名称、建築家名、建築様式につて正解を選択できる。	
	○	○				住宅から公共建築物まで、特徴や都市においての役割など、正解を選択できる。	
テキスト・教材 参考図書	確認、復習テストプリント 市ヶ谷出版 建築計画 総合資格 厳選問題集500＋100。						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	第1章 気候					
	2	第2章 伝熱・結露					復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
	3	第3章 日照・日射・採光 第4章 音響					復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
	4	第5章 色彩					復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
	5	第6章 環境工学融合					復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
	6	第7章 空気調和設備					復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
	7	第8章 給水設備					復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
	8	第9章 排水衛生設備					復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
	9	第10章 電気・照明設備					復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
	10	第11章 消火・防災設備					復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
	11	第12章 設備融合					復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
	12	第13章 建築史 第14章 計画一般					復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
	13	第15章 住宅					復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
	14	第16章 商業建築 第17章 公共建築					復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
	15	第18章 地域計画 第19章 各論融合					今までの復習プリントで復習
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60%以上取得すること (2)2級建築士 学科本試験で合格を目指すこと 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				90%
	復習問題	○	○				10%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	建築士対策（法規）						
科目名(英)	Building regulations						
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	今泉 清太	
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年						
授業概要	学科Ⅱで出題される以下の項目について基本知識を理解し習得する。 建築基準法 バリアフリー法 耐震改修法 建築士法 都市計画法 品確法						
授業形態	講義: ○		演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				法令集の準備が完了している。使用方法を理解している。	
	○	○				面積・高さ等の算定方法 構造強度 防火関係 防火構造等 概要が説明できる。	
	○	○				建築物に付随する設備についての種類や役割が説明できる。	
	○	○				建築の歴史において、建築物の名称、建築家名、建築様式について正解を選択できる。	
	○	○				法令集を使用して、各章の答えを導かせることができる。	
テキスト・教材 参考図書	確認、復習テストプリント 市ヶ谷出版 建築法規 総合資格 厳選問題集500+100。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第1章 総則 用語の定義 面積・高さ等の算定方法					
	2	第1章 総則 確認済証の交付				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	3	第1章 総則 手続き等(中間検査等)				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	4	第2章 一般構造等 一般構造 建築設備				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	5	第3章 構造強度				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	6	第4章 防火関係 防火構造等 法22条区域内の建築物				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	7	第4章 防火関係 耐火・準耐火建築物 防火・準防火地域				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	8	第4章 防火関係 防火区画・間仕切壁 内装制限等				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	9	第5章 都市計画区域等の制限 道路・壁面線				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	10	第5章 都市計画区域等の制限 用途地域				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	11	第5章 都市計画区域等の制限 容積率・建ぺい率				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	12	第5章 都市計画区域等の制限 高さの制限 日影規制				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	13	第6章 雑則				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	14	第7章 その他の関係法令 バリアフリー法 耐震改修促進法				復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	15	第7章 その他の関係法令 建築士法 都市計画法 その他				今までの復習プリントで復習	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60%以上取得すること (2)2級建築士 学科本試験で合格を目指すこと 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	復習問題	○	○				20%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	建築士対策（構造）						
科目名(英)	Building construction						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	黒木 文雄
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	設計事務所で構造設計に従事
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年						
授業概要	学科Ⅲで出題される以下の項目について基本知識を理解し習得する。構造物と力 静定構造物の応力 トラス 断面の性質 座屈 荷重 木構造 鉄筋コンクリート構造 鉄骨構造 特殊構造 建築材料 概要。						
授業形態	講義： ○		演習： △	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				工事契約の仕組を理解し、過去の建築士問題が解ける	
	○	○				鉄筋コンクリート造の施工方法に関する、建築士問題が解ける	
	○	○				鉄骨造の施工方法に関する、過去の建築士問題が解ける	
	○	○				防水工事～設備工事の施工方法についての過去の建築士試験問題が解ける	
	○	○				積算に関する知識を試す問題が解ける。	
テキスト・教材 参考図書	確認、復習テストプリント 市ヶ谷出版 建築構造 総合資格 厳選問題集500＋100。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	第1章 構造物と力				第1章テキスト内の問題を事前に回答しておく	
	2	第2章 静定構造物の応力				復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	3	第3章 特定トラスの応力				復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	4	第4章 断面の性質				復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	5	第5章 応力度と許容応力度				復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	6	第6章 変形と不静定構造物				復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	7	第7章 荷重・外力				復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	8	第8章 地盤と基礎構造				復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	9	第9章 木構造				復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	10	第10章 鉄筋コンクリート構造				復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	11	第11章 鉄骨構造				復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	12	第12章 その他の構造				復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	13	第13章 構造設計				復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	14	第14章 建築材料				復習問題で復習プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング	
	15	第14章 建築材料				今までの内容を復習する	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60%以上取得すること (2)2級建築士 学科本試験で合格を目指すこと 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	復習問題	○	○				20%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	建築士対策（施工）						
科目名（英）	Building Construction						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	集路 正巳
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	合建設会社にて、主に施工管理職として勤務
対象学科・学年	建築学科（昼） 2年						
授業概要	以下の項目について基本知識を理解し習得する。 工事監理 施工業務 仮設工事 鉄筋工事 鉄骨工事 木工事 設備工事 建築積算 測量 工事契約						
授業形態	講義： ○		演習： △	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 （到達目標）	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				工事契約の仕組を理解し、過去の建築士問題が解ける	
	○	○				鉄筋コンクリート造の施工方法に関する、建築士問題が解ける	
	○	○				鉄骨造の施工方法に関する、過去の建築士問題が解ける	
	○	○				防水工事～設備工事の施工方法についての過去の建築士試験問題が解ける	
	○	○				積算に関する知識を試す問題が解ける。	
テキスト・教材 参考図書	日建学院2級建築士学科受験テキスト 学科Ⅳ施工						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	第1章 工事契約					
	2	第2章 工事監理・施工業務					復習問題で復習 プリントは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
	3	第3章 地盤調査・測量 第4章 仮設工事					復習問題で復習 プリントjは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
	4	第5章 土工事・基礎地業工事					復習問題で復習 プリントjは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
	5	第6章 鉄筋コンクリート工事					復習問題で復習 プリントjは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
	6	第7章 鉄骨工事					復習問題で復習 プリントjは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
	7	第8章 コンクリートブロック工事					復習問題で復習 プリントjは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
	8	第9章 木工事					復習問題で復習 プリントjは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
	9	第10章 防水・屋根工事					復習問題で復習 プリントjは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
	10	第11章 左官工事					復習問題で復習 プリントjは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
	11	第12章 タイル・張石工事					復習問題で復習 プリントjは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
	12	第13章 塗装工事					復習問題で復習 プリントjは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
	13	第14章 建具・ガラス工事 第15章 内装・断熱工事					復習問題で復習 プリントjは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
	14	第16章 ユニット工事 第17章 設備工事					復習問題で復習 プリントjは次回までに提出 解説と一緒にファイリング
	15	第18章 用語・機械 第19章積算					今までの内容を復習する
評価方法	(1)定期試験（筆記）を実施する。※60%以上取得すること (2)2級建築士 学科本試験で合格を目指すこと 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	復習問題	○	○				20%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	専攻ゼミⅡA(リフォーム)					
科目名(英)						
単位数	4単位		時間数	60時間	担当者	徳田 美穂子
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験	設計事務所にて、公共施設、共同住宅等の意匠設計に従事
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年					
授業概要	前期の授業の学習内容を踏まえ、後期の授業では実際の木造住宅のリフォーム設計を行いリフォームについて学んでいく。					
授業形態	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
		○				リフォーム全体の概要説明ができる
		○				木造建築物の構造について分析することが出来る
		○				木造建築物のリフォーム設計計画ができる
		○				設計プランのプレゼンテーションが出来る
テキスト・教材 参考図書	適宜プリント配付					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	ガイダンス 課題の説明(木造建築物)				各自、資料集めを実施
	2	課題分析・資料集め				各自、資料集めを実施
	3	エスキース(構造の確認・コンセプト設定)				エスキースの作成を行うこと
	4	エスキース(ラフ図面)				エスキースの作成を行うこと
	5	エスキース(ラフ図面) ラフ図面提出				エスキースの作成を行うこと
	6	ラフ図面・コンセプトの教員確認				エスキースの作成を行うこと
	7	6回目を受けてのラフ図面・コンセプトの修正				エスキースの作成を行うこと
	8	ラフ図面・コンセプトの教員確認				エスキースの作成を行うこと
	9	図面作成 タイトル・コンセプト				プレゼンテーションの構成を考えておくこと
	10	図面作成 平面図				プレゼンテーションの構成を考えておくこと
	11	図面作成 立面図				プレゼンテーションの構成を考えておくこと
	12	図面作成 内観パース 構図検討				プレゼンテーションの構成を考えておくこと
	13	図面作成 内観パース① 下書き				プレゼンテーションの構成を考えておくこと
	14	図面作成 内観パース① ペン入れ				プレゼンテーションの構成を考えておくこと
	15	図面作成 内観パース① 着色				プレゼンテーションの構成を考えておくこと
	16	図面作成 内観パース② 下書き				プレゼンテーションの構成を考えておくこと
	17	図面作成 内観パース② ペン入れ				プレゼンテーションの構成を考えておくこと
	18	図面作成 内観パース② 着色				プレゼンテーションの構成を考えておくこと
	19	模型作成 部材枠取り				プレゼンテーションの構成を考えておくこと
	20	模型作成 部材切抜				プレゼンテーションの構成を考えておくこと
	21	模型作成 部材組合せ				プレゼンテーションの構成を考えておくこと
	22	模型作成 細部作成				プレゼンテーションの構成を考えておくこと

	23	模型作成 細部作成	プレゼンテーションの構成を考えておくこと				
	24	模型作成 細部作成	プレゼンテーションの構成を考えておくこと				
	25	模型作成 部分修正	プレゼンテーションの構成を考えておくこと				
	26	模型作成 仕上げ	プレゼンテーションの構成を考えておくこと				
	27	プレゼンテーションデータ作成	プレゼンテーションの構成のシュミレーションをする事				
	28	課題発表シュミレーション	プレゼンテーションの構成のシュミレーションをする事				
	29	発表と講評	この課題の振返りをしておくこと				
	30	発表と講評②	この課題の振返りをしておくこと				
評価方法	(1)作品の提出状況および作品内容 (2)制作発表以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題内容		○				70%
	発表		○				30%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	専攻ゼミⅡB(設計)(必修選択)										
科目名(英)											
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		徳田 美穂子		
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験		設計事務所にて、公共施設、共同住宅等の意匠設計に従事		
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年										
授業概要	1年生で学んだ建築知識を基礎に調査・企画・設計の自ら行い、CADやillustrator&Photoshopで図スキルを磨き模型制作とプレゼンテーション能力を学ぶ										製
授業形態	講義:		演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
		○				プランニング・デザイン・コンセプトをプレゼンできる					
		○				数多くの情報を収集し必要な情報のみを分析しオリジナルのプランニングにまとめる					
		○				現地調査・事例調査を現地に行き自分の目で見て実行できる					
テキスト・教材 参考図書											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	課題説明・スケジュール説明					各自、資料集めを実施				
	2	資料収集・個別コンセプト・エスキース					各自、資料集めを実施				
	3	資料収集・個別コンセプト・エスキース					各自、資料集めを実施				
	4	資料収集・個別コンセプト・エスキース					各自、資料集めを実施				
	5	エスキースプレゼン					エスキースの作成を行うこと				
	6	エスキース修正					エスキースの作成を行うこと				
	7	エスキース修正・図面制作					エスキースの作成を行うこと				
	8	図面制作					エスキースの作成を行うこと				
	9	図面制作					プレゼンテーションの構成を考えておくこと				
	10	図面制作					プレゼンテーションの構成を考えておくこと				
	11	図面制作・模型制作					プレゼンテーションの構成を考えておくこと				
	12	図面制作・模型制作					プレゼンテーションの構成を考えておくこと				
	13	図面制作・模型制作					プレゼンテーションの構成を考えておくこと				
	14	中間発表					プレゼンテーションの構成を考えておくこと				
	15	図面制作・模型制作					プレゼンテーションの構成を考えておくこと				
	16	図面制作・模型制作					プレゼンテーションの構成を考えておくこと				
	17	図面制作・模型制作					プレゼンテーションの構成を考えておくこと				
	18	図面制作・模型制作					プレゼンテーションの構成を考えておくこと				
	19	図面制作・模型制作					プレゼンテーションの構成を考えておくこと				
	20	模型仕上・写真撮影					プレゼンテーションの構成を考えておくこと				
	21	図面手直し・模型手直し・パネル・P.P.制作					プレゼンテーションのシュミレーションを行っておくこと				
22	図面手直し・模型手直し・パネル・P.P.制作					プレゼンテーションのシュミレーションを行っておくこと					

	23	図面手直し・模型手直し・パネル・P.P.制作	プレゼンテーションのシュミレーションを行っておくこと				
	24	図面手直し・模型手直し・パネル・P.P.制作	プレゼンテーションのシュミレーションを行っておくこと				
	25	図面手直し・模型手直し・パネル・P.P.制作	プレゼンテーションのシュミレーションを行っておくこと				
	26	図面手直し・模型手直し・パネル・P.P.制作	プレゼンテーションのシュミレーションを行っておくこと				
	27	総仕上げ	プレゼンテーションのシュミレーションを行っておくこと				
	28	課題発表シュミレーション	プレゼンテーションのシュミレーションを行っておくこと				
	29	発表と講評	この課題の振り返りをしておくこと				
	30	発表と講評②	この課題の振り返りをしておくこと				
評価方法	(1)作品の提出状況および作品内容 (2)制作発表 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題内容		○				70%
	発表		○				30%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	卒業制作					
科目名(英)	Architectural Diploma design of Housing and Urban Planning majors					
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	中島 潤	
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	建築設計事務所にて設計を担当	
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年					
授業概要	今まで学んできた建築学・計画学の積み重ねの集大成として位置付けている。社会問題や環境問題、身の回りの課題など、テーマを自由に設定し、それを「建築」という手段で解決に向かう一連の作業である。また指導に際しては、その一連の作業が社会で仕事を遂行する訓練として位置付けており、基本的な作業(準備、段取り、調査、説明など)から評価の対象とする。また、自分の意思表現でもあるプレゼンテーションにおいては、厳しく指導を進めることとする。人に伝えるとは何か、また、建築が解決できることは何か、常に物事の本質に向かう姿勢を大切に指導を行うものとする。					
授業形態	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標
	○					対象敷地を定め、周囲環境、コンテキスト等を調査しまとめることができる。
		○				建築計画を立案し、具体的な設計内容を、ダイアグラムや図面、模型を作成しまとめることができる。
		○				客観的・多角的な目線で計画内容を再検討し、ブラッシュアップすることができる。
		○				計画案について魅力的に発表することができる。
		○				他者の作品に対し、的確にアドバイスすることができる。
テキスト・教材 参考図書	テキスト:なし, 参考図書:建築設計資料集成、新建築および各種建築書籍資料等					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	ガイダンス:卒業制作の概要と前期作業内容の解説				スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。
	2	ガイダンス:卒業制作の概要と前期作業内容の解説				
	3	エスキス:テーマ設定(調査資料、作業資料、敷地図面等による確認)				
	4	エスキス:テーマ設定(調査資料、作業資料、敷地図面等による確認)				
	5	エスキス:コンセプト設定(ダイアグラム、図面、スタディ模型等による確認)				
	6	エスキス:コンセプト設定(ダイアグラム、図面、スタディ模型等による確認)				
	7	エスキス:計画案の概要設定(ダイアグラム、図面、スタディ模型等による確認)				
	8	エスキス:計画案の概要設定(ダイアグラム、図面、スタディ模型等による確認)				
	9	発表:取り組む課題とその計画案について発表(PC+プロジェクター／1人5分程度)				講評における評価・指導内容を客観的に見つめ直し、作品のブラッシュアップにつなげること。
	10	発表:取り組む課題とその計画案について発表(PC+プロジェクター／1人5分程度)				
	11	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)				スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。
	12	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)				
	13	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)				
	14	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)				
	15	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)				
	16	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)				
	17	発表:計画内容の詳細発表(PC+プロジェクター／1人5分程度)				講評における評価・指導内容を客観的に見つめ直し、作品のブラッシュアップにつなげること。
	18	発表:計画内容の詳細発表(PC+プロジェクター／1人5分程度)				
	19	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)				
	20	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)				

	21	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)	スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。				
	22	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)					
	23	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)					
	24	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)					
	25	発表:最終発表(PC+プロジェクター／1人5分程度)	講評における評価・指導内容を客観的に見つめ直し、作品のブラッシュアップにつなげること。				
	26	発表:最終発表(PC+プロジェクター／1人5分程度)					
	27	最終成果手直し					
	28	最終成果手直し					
	29	最終成果手直し+最終提出					
	30	最終成果手直し+最終提出					

評価方法	課題作品、エスキスチェック、発表を、下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題作品	○	◎				80%
	エスキスチェック	○	○				10%
	発表	○	○				10%

履修上の注意	出席60%以上が単位付与の条件
--------	-----------------

科目名	検定対策ゼミB(選択)インテリアコーディネーター										
科目名(英)											
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		赤星 亜美		
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験		オーダー家具制作会社でインテリアコーディネーターとして勤務		
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年										
授業概要	インテリア産業協会主催インテリアコーディネーター検定対策の学習を通して、建築概要とインテリアコーディネーター知識のより専門的な知識の習得を図る										
授業形態	講義: ○		演習:		実習:		実技:		※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○					インテリアエレメントの特徴を説明することができる					
	○					インテリアコーディネーター一次試験の合格基準点をとることができる					
	○					インテリア設計(展開図)を書くことができる					
	○					インテリアコーディネーター二次試験の合格基準点をとることができる					
テキスト・教材 参考図書	テキスト: インテリアコーディネーター合格教本(上・下) インテリアコーディネーター問題集(上・下) その他										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	15章 建築関連法規									
	2	8章 各種エレメント					予習・復習することを心がける。				
	3	16章 消費者関連法規					前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。				
	4	模擬試験					前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。				
	5	模擬試験					前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。				
	6	模擬試験					前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。				
	7	模擬試験					前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。				
	8	模擬試験					前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。				
	9	模擬試験					前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。				
	10	模擬試験					前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。				
	11	模擬試験					前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。				
	12	模擬試験					前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。				
	13	模擬試験					前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。				
	14	模擬試験					前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。				
	15	模擬試験					前回の確認テスト実施。予習・復習することを心がける。				
評価方法	(1)小テストを各章が修了した次の授業で実施する。(2)20回目から宿題あり。(3)全国模試を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	全国模試		○					50%			
	小テスト		○					25%			
	宿題		○					25%			
履修上の注意											

科目名	検定対策ゼミB(選択)宅地建物取引士									
科目名(英)										
単位数	2単位			時間数	30時間		担当者	森行 美枝		
実施年度	2023年度			実施時期	後期		担当者実務経験	建築設計事務所にて設計・監理業務担当		
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年									
授業概要	宅建試験の合格も視野に、試験の問題演習を通して、建築物を取引する不動産権利取引に関する知識を修得する。それにより、建築物の財産的価値の重要性を認識できる視点を養う。後期は特に重要ポイントを絞り込んだ総合的な演習も盛り込む。									
授業形態	講義: ○		演習: △		実習:		実技:		※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				宅建業の業務内容と役割の特に重要な部分について、関連条文の規定を用いて説明できる				
	○	○				宅地建物取引士の実務における重要事項を条文規定を用いて正しく説明できる				
	○	○				民法の権利義務関係について、小テスト・模擬テストで平均正答率60%以上を出すことができる				
	○	○				不動産取引手続きに関する問題について、小テスト・模擬テストで平均正答率60%以上を出すことができる				
					○	宅地建物取引士資格試験合格				
テキスト・教材 参考図書	出る順 宅建士 ウォーク問過去問題集2018年版①～③【東京リーガルマインド】									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	用語の定義／免許制度／宅建士制度営業保証金／保証協会／媒介契約等の規制					学習した箇所は必ず復習し、不明点は質問して理解に努めること			
	2	重要事項の説明／37条書面 8種制限／業務上の諸規制／監督・罰則／単元テスト					正答できなかった問題は復習、質問するなどして不明点を明らかにする			
	3	報酬／住宅瑕疵担保履行法					学習した箇所は必ず復習し、不明点は質問して理解に努めること			
	4	制限行為能力者／意思表示／代理時効／不動産物権変動／物権関係					学習した箇所は必ず復習し、不明点は質問して理解に努めること			
	5	抵当権／保証・連帯保証／連帯債務債権譲渡／債務不履行と解除／弁済・相殺／売買／単元テスト					正答できなかった問題は復習、質問するなどして不明点を明らかにする			
	6	借地借家法/借地借家法					学習した箇所は必ず復習し、不明点は質問して理解に努めること			
	7	区分所有法／不動産登記法／単元テスト					正答できなかった問題は復習、質問するなどして不明点を明らかにする			
	8	都市計画／開発許可制度/建築基準法(単体規定・集団規定)／宅地造成等規制法					学習した箇所は必ず復習し、不明点は質問して理解に努めること			
	9	土地区画整理法／農地法/国土利用計画法／諸法例					学習した箇所は必ず復習し、不明点は質問して理解に努めること			
	10	国土利用計画法／諸法例/不動産取得税／固定資産税					学習した箇所は必ず復習し、不明点は質問して理解に努めること			
	11	不動産譲渡所得／登録免許税／印紙税／贈与税					学習した箇所は必ず復習し、不明点は質問して理解に努めること			

	12	地価公示法／不動産鑑定評価基準／単元テスト	正答できなかった問題は復習、質問するなどして不明点を明らかにする				
	13	住宅金融支援機構／景品表示法／土地／建物／統計	学習した箇所は必ず復習し、不明点は質問して理解に努めること				
	14	全国模擬試験①	学習した箇所は必ず復習し、不明点は質問して理解に努めること				
	15	全国模擬試験②	学習した箇所は必ず復習し、不明点は質問して理解に努めること				
評価方法	(1)単元テスト(2)模擬試験(3)宅地建物取引士資格試験の点数で評価する 成績評価基準は、平均正答率 S(90%以上)・A(80%以上)・B(70%以上)・C(60%以上)・D(59%以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	単元テスト	○	○				40%
	模擬試験	○	○				40%
	宅地建物取引士資格試験					○	20%
履修上の注意	難しい法律用語が多々出てくるので、用語の意味をその都度細かく確認すること						

科目名	検定対策ゼミB(選択)2級建築施工管理技士資格試験									
科目名(英)										
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		山口 勇二	
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験		建設会社にて 建築設計職として勤務	
対象学科・学年	建築学科(昼) 2年									
授業概要	前期ゼミでは、本。試験(学科)に対応できる知識を身につける事に重点を置きました。 後期ゼミでは、11月の本試験合格を視野に、過去問題演習を中心に実力(正解率60%以上)を身につけていきます。また、模擬テスト(3回以上)を実施し弱点を洗い出し得点力アップを目指します。									
授業形態	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				建築施工に関する専門用語の意味を正しく説明できる。				
	○	○				過去問の平均正解率60%以上を獲得できる。				
	○	○				模擬テストの平均正解率60%以上を獲得できる。				
テキスト・教材 参考図書	①. 2級建築施工管理技士要点テキスト(2021年度版)市ヶ谷出版社 ②. 2級建築施工管理技士即戦問題集(2021年度版)市ヶ谷出版社									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	実力確認テスト／本試験の概要説明など					・後期ゼミは演習中心となります。 問題解説は数が限られてしまうため、必ず 自分で(解説書を)確認してください。 ・宿題がほぼ毎回出ます。必ず、消化して ゆく事。(弱点の洗い出しに役立ちます)			
	2	過去問題演習・解説01								
	3	過去問題演習・解説02								
	4	過去問題演習・解説03								
	5	過去問題演習・解説04								
	6	過去問題演習・解説05								
	7	模擬テスト①								
	8	過去問題演習・解説06								
	9	過去問題演習・解説07								
	10	過去問題演習・解説08								
	11	過去問題演習・解説09								
	12	過去問題演習・解説10								
	13	過去問題演習・解説11								
	14	模擬テスト②								
	15	直前模擬テスト③								
評価方法	(1)授業中に小テストを実施する。(2)模擬テスト(3回程度)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	模擬テスト	○		◎				70%		
	小テスト	○		◎				30%		
履修上の注意										
	出席が総コマ数の2/3に満たない場合には、単位を与えない。また、ゼミ受講に対する意欲が感じられないと判断した場合は、ゼミへの出席停止を指示する事がある。									

科目名	BIM 専攻ⅡB(選択)											
科目名(英)	Building Information ModelingⅡB											
単位数	1単位		時間数		15時間		担当者		道脇 力			
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験		建築設計会社にて設計担当			
対象学科・学年	建築工学科 ・ 建築CAD科 ・ 建築学科(昼) 2年											
授業概要	・課題の制作を通じた実践的な表現技術の習得。 ・各用途の建築計画的理解と表現。											
授業形態	講義:		演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる形態:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
		○	○			ゾーンツールを使ってポリウムスタディができる。						
			○			BIMワークフローにより効率よく設計ができる。						
		○	○			BIMを活用したプレゼンテーションができる。						
テキスト・教材 参考図書	木造住宅入力ガイド(グラフィソフト提供トレーニングドキュメント)											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	課題:複合ビル「制作②」					情報、資料収集を行うこと					
	2	課題:複合ビル「制作③」					情報、資料収集を行うこと					
	3	課題中間報告(発表)					発表資料の確認を行うこと					
	4	課題:複合ビル「制作④」					タイムスケジュールの確認を行うこと					
	5	課題:複合ビル「制作⑤」					タイムスケジュールの確認を行うこと					
	6	課題:複合ビル「制作⑥」					タイムスケジュールの確認を行うこと					
	7	課題:複合ビル「制作⑦」					必要提出資料の確認を行うこと					
	8	課題プレゼンテーション(発表)「プレゼン資料提出」					必要提出資料の確認を行うこと					
	9											
	10											
	11											
	12											
	13											
	14											
	15											
評価方法	(1)発表・作品 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。											
			言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	評価割合
	発表・作品				◎		○					50%
	課題提出				◎							50%
履修上の注意	出席が60%に満たない場合は、単位を認めない。											